

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
児童指導	①多様な課題について、全体で共通理解して未然防止、早期発見に努める。②校内ケース会議を実施し、外部機関やSC・SSWとも連携しながら組織的に対応する。
担当	

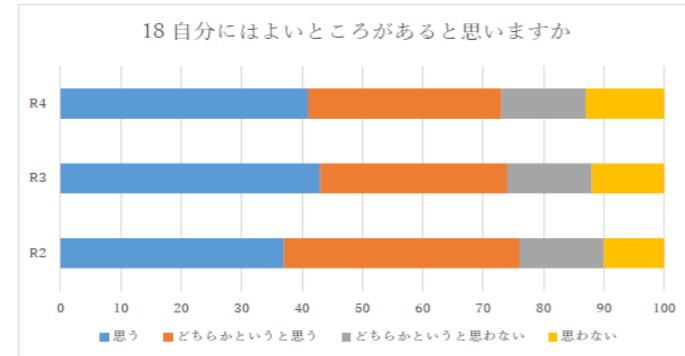
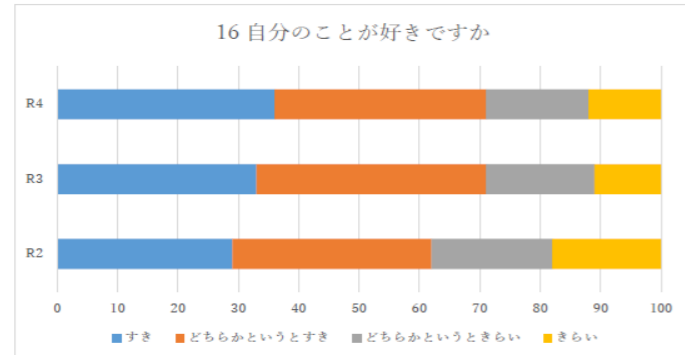
豊かな心に関わる本校の状況

○本校では、H29年度から重点研究として生活科・総合的な学習の時間の探求を続けており、地域とのつながりを大切にしながら、たくさんの方々と関わる経験を積みながら、少しずつ自己肯定感が高まってきた。

また、道徳科の学習でも、具体的な学校生活の場面に注目しながら道徳的価値を追求し、自己理解と他者を尊重する気持ちを育てている。

しかし、R4年度の横浜市学力・学習状況調査の生活意識の自己肯定感についての項目では、R3年度の数値を上回るものの、市の平均を下回っている。

これまでの他者とのつながりを大切に学習を継続しつつ、様々な教育活動の中で自己肯定感を高められるような場面を設定していく必要がある。



今年度の目標

多角的な児童理解に努めるとともに、他者意識を高められるような教育活動を設定し、自校肯定感が高められるようにする

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

○児童指導における未然防止・早期発見の取組
いじめアンケート、YPアセスメント、児童アンケートなどを実施し、結果を分析することで児童理解を深める。また、全職員での情報共有を図るため、児童理解の内容をデータにまとめ、全体で共有していく。また、児相やこ家など関係機関との情報共有やカンファレンスを継続的に実施し、組織的な対応に努める。また、SCとの教育相談の実施やSSWの活用しながら様々な視点でのケアを意識した支援・指導を行う。

○道徳教育
道徳科の授業では、道徳科の年間指導計画に基づき、道徳的諸価値についての理解を深める。自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方や他者との関わりについての考え、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

○つながり活動
年数回行い、6年生がリーダーとして下学年と関わることで、最高学年としての意識や下学年への思いやりの気持ちを育む。学年を越えて多様性を尊重する態度を育てる。

下半期